

平成30年度 不登校を考えるフォーラム 実施報告

- 1 目的 不登校の未然防止・早期対応の重要性について理解を深め、不登校に対する適切な支援の在り方を考える。
- 2 日時 平成31年1月19日(土) 13:30~16:00
- 3 内容 <いじめ・暴力行為等防止ポスター表彰式>
<基調講演>・<ディスカッション>
「不登校の何が問題なのか ~不登校を難しくしているもの~」
不登校生保護者の会「ぼちぼちの会」 会長 木村 素也 氏

4 フォーラム参加者 (人)

	学校関係者				民生・活性化委員・ 保護司 相談員	市民 その他	行政	合計
	小学校教員	中学校教員	保護者	評議員				
人数	29	14	54	6	23	4	25	155
合計	103							

5 アンケート回収率：52% (人)

	学校関係者			民生・活性化委員・ 保護司 相談員	市民 その他	行政	合計
	小学校・中学校教員	保護者	評議員				
人数	35	21	6	15	4	—	81
合計	62						

6 アンケート結果

(1) 内容はわかりやすかったですか(あてはまる番号に○をつけてください) (人)

	よく分かる	分かる	やや難しい	難しい
人数	47	32	2	0

パワーポイントを使いながら実際の事例を交えてのお話で98%の方が、分かりやすかったとお答えいただきました。ご自身の不登校経験と重ね合わせ「納得できました」と、コメントされた方もいらっしゃいました。

(2) 不登校への取組として役立つ内容でしたか(あてはまる番号に○をつけてください) (人)

	よく分かる	分かる	やや難しい	難しい
人数	47	32	2	0

『学校に行くデメリット・行かないメリット』に視点を当てて、考えてみることで少し自信を取り戻せるかもと感じました」など、保護者の方に元気を少しだけ取り戻していただけたのかなと感じるコメントを多くいただきました。

(3) 参加者の感想

【保護者】

- とても良いお話でした。1から10まで私が感じていたことすべてお話していただきました。特に、30歳で高校生になった人の話は、とても感動しました。ありがとうございました。
- 私自身が不登校を経験していて(高校時代)、当時の思いやまよった自分の気持ちなどが、スッと落ちていく気持ちでした。(当時の自分を救ってくれたのは、地域の大人の方です。)自分の子どもは現在6年生、4年生です。下の子どもが2年生の時に、担任の先生との関係がきっかけとなり大好きだった学校に行けなくなりかけました。でも、まだ大好きだと通えるようになったのは、3年生時代の担任の先生のおかげでした。教育現場の先生方のご苦勞も、PTA活動で学校に行くことで見え、沢山配慮していただいています。まずは、自分の子ども、周りの子ども、きっかけや声掛けの参考にさせていただきます。ありがとうございました。

- 不登校の子どもが、どんな考えの中にいるのか、子どもの目線に立って話して下さった内容がとても腑に落ちました。親として、頭ではわかっているつもりでもなかなかうまく行動できないことも多いです。子どもと一緒によく考え、見守っていきたいと思いました。
- 行事のみ出席し、通常の授業には登校しないしていると、「あいつはやっぱりサボりだ」のような言葉（同級生からの）が耳に入り、自己肯定感の下がっている心に刺さり、ますます遠のいてしまいます。学校に行くメリット・デメリット、行かないメリット・デメリットのチャートが分かりやすく、「学校に行くデメリット・行かないメリット」に視点を当てて、考えてみることで少し自信を取り戻せるかもと感じました。
- 小学1年生の子どもを持つ母です。家だと楽しそうに勉強していますが、学校だとやりたくない学習活動をやらなければならないので、泣いています。今日の講座を聴いて、無理にやらせる必要はないのかなとは思いますが、学校側がそれを受け入れてもらえるか疑問です。いじめられた側が、不登校になるのは納得がいかない。いじめた側が、謹慎すべきだと感じる。友だち作りが苦手な子どもに対するサポートが足りない。おとなしい子、人と関わりを持ちたくない子というレッテルを貼ることなく、友だち作りにも先生から介入してもらいたい。

【教職員】

- 不登校の子どもにどう対応すればよいか悩むことが多くなっています。教員が一番の不登校の専門家でなければいけないという話を聞いて、どうしたら良いか考えなければならないと痛感しました。
- 周りの大人たちの意識と態度が大きな要因だということを知り、難しさを実感しました。長期的な視野で対応を考え、学校に安心できる場所と信頼関係作りが必要だと思いました。市内でも教室が不足している学校が多い中、居場所作りは困難だと感じました。お忙しい中、機会を設けて頂き、ありがとうございました。
- 多様性が求められる教育なのに、一律的な指導、寛容性に欠けた現場の指導に関しては、残念に感じています。実践してこられた先生のお話は、とても納得することが多くありました。“教師は指導者ではなく支援者である”子どもと一緒に考えどうありたいか考えていく教師が増えて欲しいと願う日々、チーム学校として教師集団の意識の改革が一番必要かもしれません。
- 行く価値ある学校、一人でも自分を理解してくれる信頼できる大人がいれば…子どもが動き、子どもが耳を傾け、子どもから口を開く…これは、不登校の子どもだけでなく、大人も同じだと感じました。理解できる、理解してくれる人の存在は、本当に大きいですね。まずは、自分がそうなれるよう、一人でも子どもを救える存在になれるように頑張ります。
- 改めて、子どもとの関わり方を考え直す良い機会になった。原点に戻り、子供たちとの信頼関係をしっかりと築いていけるようにと思えました。
- 保護者の意見が聞いて良かった。考えも膨らませることができ、良いフォーラムとなった。先生が言っていた「一番ひどい子を精一杯見れる」教員でありたいと思った。ありがとうございました。
- 今日の先生のお話を聴いて、これまで不登校の子どもとの関わり方、言葉のかけ方で反省しなければならないことに気づき学びました。また、頭では理解していることも忘れがちなこと（信頼関係の大切さ）を改めて学びました。
- 「教師は指導者ではなく支援者」この言葉は強く胸に響きました。私自身、指導者のように振舞ってきたように思います。困り感を持つ、児童の不利益を少しでも解消できるよう、まず、子どもたちとの信頼関係を築いていきたいとします。貴重なご講演でした。ありがとうございました。

【地域の皆様】

- とても分かり易いお話でした。不登校は学校の責任において支援していくものという関連の内容、大人の思いを押し付けず、本人が困り感を持った時に寄り添うことの大切さを学びました。子育てに失敗はないとの言葉はうれしいものでした。
- ディスカッションの生の声が聞いて良かったです。講演の中で、地域の関わりを少し話されましたが、些細なことで“おせっかいお婆さん”していければと思いました。ありがとうございました。
- 不登校に対して地域として自治会としてどう取り組むか個人情報との関係で難しい面があり、保護者への話し合い教育が必要だと思います。大和市立フリー学校を設立して不登校生をまとめ教育する。現在あるフリースクールを集める。
- 小6の子どもが小4～不登校で、担任やSCの先生と様々な話をしてきました。親や親せき、友だちに言われたこと。将来の不安をおおるようなこと、子どもを否定するようなこと、木村先生の話に全て入っていたことでした。自分もたくさんの「べき」を手放し、許可したり、認めたりしながら、子どもと進んできました。その答え合わせができた気持ちでした。十分な休息と安全な場所とつながりを作れた子どもは、きっとしなやかな強さを持っていると思います。